

平成 21 年 4 月 30 日現在

研究種目：基盤研究（A）  
 研究期間：2006～2008  
 課題番号：18203025  
 研究課題名（和文） 戦略的環境経営の研究：サプライチェーン・マネジメント・アプローチ  
 研究課題名（英文） Studies for Strategic Environmental Management -Supply Chain Management Approach--  
 研究代表者 浅田 孝幸（ASADA TAKAYUKI）  
 大阪大学・大学院経済学研究科・教授  
 研究者番号：10143132

## 研究成果の概要：

本研究成果は、3つ挙げることができる。1つは、環境経営に関する研究・実践でのパラダイムシフトが、ミクロレベル～サプライチェーン・レベルで確実に進行していることを確認したこと。2つめは、企業レベルでの研究で、企業の社会責任経営、コーポレートガバナンス体制、環境経営方針のテーマで組織のトップレベルの戦略として具体的な環境経営の仕組みが形成されていること。3つめは、製品開発マネジメントにおいて、利害関係者団体に、NPO や NGO などの新たな関係者からの影響を取り込むメカニズムの構築が進みつつあることが、ケースを通じて明らかになったこと。

## 交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	7,800,000	2,340,000	10,140,000
2007 年度	7,200,000	2,160,000	9,360,000
2008 年度	6,800,000	2,040,000	8,840,000
年度			
年度			
総計	21,800,000	6,540,000	28,340,000

## 研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・経営学

キーワード：経営学、政策研究、サプライチェーン・マネジメント、環境対応、企業社会責任

## 1. 研究開始当初の背景

環境経営については、実態としては、戦略レベル、マネジメントレベル、オペレーションレベルのうち、工場・事業所・営業所などの現場（オペレーションレベル）での進捗は 3R への具体的な取組で明かにされていた。戦略レベルの環境経営の取組については、概念が先行していたが、内実は明かにされていないことが多い状況であった。

## 2. 研究の目的

環境経営の日本企業の実態を明らかにすること、具体的な、環境経営のための仕組

みや、全社的な戦略的環境経営への具体的な取組について明らかにすることである。とりわけ、サプライチェーンという、企業の付加価値形成の基幹活動での環境経営への取組を明かにし、それらの今後の方向と社会に与える影響を解明すること。ならびに、その戦略から派生する、営業・マーケティング、財務、生産管理などの具体的なオペレーションとの関係を明らかにすることを目的としていた。

## 3. 研究の方法

研究方法としては、実態解明としてのサプライチェーンマネジメントの郵送質問調査

(2007年と2008年に実施) ケース研究(大手洗剤・化学会社、製紙会社、鉄鋼会社、自動車会社、家電会社、ハウジング会社、非営利環境エネルギー法人、精密機械会社などについて調査・作成)で、具体的で先進的なサプライチェーンについての環境経営の革新的ケースを抽出し、それにコーポレートレベルでの社会責任経営と環境戦略への具体的な理論展開を行った。研究方法の段階的な展開としては、論文などのレビューによる仮説抽出、それを元にした郵送質問表の作成、統計解析、それらからの仮説検証とそれを支える示唆すべきケースの深い調査、以上の流れを通じて、先進的な戦略的サプライチェーンの現状説明と今後の方向性を示すことであった。

#### 4. 研究成果

以上の流れに沿って、先進的な企業経営の実態を明らかにすることについて、(7)、(10)、(11)、(12)、(13)、(14)、(18)、で明かにしている。とりわけ、(7)、(10)では、具体的な調査結果のケースを例にして、生産から物流あるいは、購買から生産に関連する過程において、ISO14001の基準に従いながら、はるかに先進的な環境配慮型のSCM構築の基本的な方法論や課題を明かにしている。ここで発見された内容で実態調査表の仮説が設定されている。また、(12)、(13)、(14)、(18)では、地域産業での環境に配慮した生産システムの構築やグリーン・エネルギー供給事業における非営利企業のケースなどを参考にして、その社会的経営理念と事業性の両立を図る場合のビジネスモデルが紹介されており、それらケースの基礎になる経営戦略を明かにしている。一方で、(11)では、インタビュー調査から明らかになった化学メーカーにおける、CSRの具体的取り組みの意義について、経済学的なアプローチでその意義の再解釈が行われており、この分野では貴重なサーベイ研究である。実態調査標本調査と事例調査は(1)、(2)で行った。(1)での知見としては、環境配慮型SCMの構築においては、企業間の濃密な技術や課題に関する情報交換の行われている組織間で先進的なSCMが企画・構築されており、大手メーカーのみでの独自の動きによる、環境配慮型SCMとは明かに異なる成果が観察されている。しかし、この先進的SCMにおいても、SCMの上流の企業間での構築は、進んでいるが、川下にあたり、最終廃棄やりサイクルについてのリバースSCMの動きは、まだ端緒がついたレベルであることを伺わせる結果となっている。今後については、実態調査データを深く分析して、先進的な事例の深い研究について行う予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計27件)

- (1)山根里香・浅田孝幸「環境配慮型SCMを促進するマネジメントコントロールの機能 質問調査の結果から」『企業会計』2009年8月、15頁 査読無し
- (2)浅田孝幸「環境経営とマネジメントコントロール・システムー統合的マネジメントのための戦略管理会計にむけてー」『経理研究』(中央大学経理研究所)、第52号、2009年2月、309-320頁 査読無し
- (3)ウイラワト・ニタ、照井伸彦、「購買履歴データによる顧客別参照価格の特定化とCRMへの実践可能性」、『マーケティング・サイエンス』、16巻、pp.75-94、2009年2月、査読有り
- (4)大屋幸輔、Estimation and Testing for Dependence in Market Microstructure Noise、*Journal of Financial Econometrics*、vol.7、pp.106-151、2009年、査読有り
- (5)浅田孝幸、坂田佳崇、「携帯電話端末開発プロセスおよびその組織に関する研究ー上流設計における通信キャリアー端末メーカー間の関係性とその効率化に関する検討ー」、『国際プロジェクト・プログラムマネジメント学会誌』、3巻1号、pp.61-72、2008年、査読有り
- (6)T. Maeda、T. Okamoto、Y. Fukushige and T. Asada、[Lectures Sequence] Management System Using Mobile Phone Messages、*Selected papers of International Conference on Computer and Information Science*、pp.181-187、2008年、査読有り
- (7)Abdel-Maksoud and T. Asada、Performance Measures, Managerial Practices and Manufacturing Technologies in Japanese Manufacturing Firms : State of the Art、*International Journal of Business Performance Management*、Vo.10 No.1、pp.1-16、2008年、査読有り
- (8)浅田孝幸・塘誠・頼誠、「純粹持株会社制におけるマネジメント・コントロールの現状と課題」、『会計』、174巻3号、pp.103-118、2008年、査読無し
- (9)浅田孝幸、「知識経営の特質と無形資産の意義」、『会計』、173巻4号、pp.49-68、2008年、査読無し

(10) 浅田孝幸、「環境戦略としてのサプライチェーン・マネジメントとマネジメント・コントロール」、『Business Research』、1015 巻、pp. 16-22、2008 年、査読無し

(11) 高尾裕二、「CSR 報告書と企業経営」、『Business Research』、No.1015、pp.35-40、2008 年、査読無し

(12) 金井一頼、「戦略的 CSR と環境経営：企業経営における戦略的社会性の視点から」、『Business Research』、No.1015、pp.23-28、2008 年、査読無し

(13) 金井一頼、「これからの時代に求められる経営者の役割：企業価値の創造と戦略的リーダーシップ」、『関西経協』、62 巻 1 号、pp.30-33、2008 年、査読無し

(14) 金井一頼、「『社会企業家』を育てる」、『エコノミスト』、86 巻 9 号、pp.48-51、2008 年、査読無し

(15) 金井一頼、「地域企業のソーシャル・イノベーションが地域を豊かにする」、『商工金融』、58 巻 8 号、pp.1-2、2008 年、査読無し

(16) 金井一頼、「視点 社会企業家研究へのお誘い」、『組織科学』、Vol.42 No.1、p.79、2008 年、査読無し

(17) 金井一頼、「ブランドとのれんを守るためには：企業は、いま基本に戻れ」、『宣伝会議』、751 号、pp.12-13、2008 年、査読無し

(18) 金井一頼、「地域資源と科学的「知」の融合による地域活力の再生」、『産学官連携ジャーナル』、Vol.5 No.1、pp.11-12、2008 年、査読無し

(19) 関口倫紀、Executive staffing practice patterns in foreign MNC affiliates based in Japan、*Asian Business & Management*、No.7、pp. 381-402、2008 年、査読有り

(20) 関口倫紀、International perspectives on the legal environment for selection、*Industrial and Organizational Psychology: Perspectives on Science and Practice*、No.1、pp. 206-246、2008 年、査読有り

(21) 関口倫紀、Broadening international perspectives on the legal environment for personnel selection、*Industrial and Organizational Psychology: Perspectives on Science and Practice*、No.1、pp. 266-270、2008 年、査読有り

(22) 関口倫紀、Self-esteem and justice orientation as moderators for individual and group-level justice effects、*Discussion Papers In Economics And Business Graduate School of Economics and Osaka School of International Public Policy*、pp.8-15、2008 年、査読無し

(23) 松村真宏、「テキストデータのマーケティングへの活用と課題」、『経営システム』、第 18 巻第 1 号、pp.32-37、2008 年、査読無し

(24) 松村真宏、「非営利組織における代替リーダーシップ行動の分析」、『情報処理学会論文

誌』、49(8)、pp. 2783-2790、2008 年、査読有り

(25) Nobuhiko Terui, Wirawan Dony Dahana、Price Customization Using Price Thresholds Estimated From Scanner Panel Data、*Journal of Interactive Marketing*、20 巻、pp.58-70、2008 年、査読有り

(26) Wirawan Dony Dahana、Nobuhiko Terui、Reference Price Formation Model for Heterogeneous Consumers、*Proceedings of Tsukuba-Tohoku Joint Workshop on New Directions of Research in Marketing*、2008 年、pp.36-67、査読無し

(27) 金井一頼、「地域資源の有効活用による地域企業の戦略的イノベーション」、『中小企業と組合』、No.748、pp.4-6、2007 年、査読無し

〔学会発表〕(計 4 件)

浅田孝幸、塘誠、頼誠、「純粹持株会社制による組織再編の実態」、『日本会計研究学会年次大会、2008 年 9 月 10 日、立教大学

ウイワン・ドニ・ダハ、参照価格の個人別推定と CRM』、『統計関連学会連合大会、2008 年 9 月 8 日、慶應義塾大学

浅田孝幸、坂田佳崇、「開発プロセスおよびその組織に関する研究」、『国際 P2M 学会春期大会、2008 年 4 月 26 日、青山学院大学

Asada, Takayuki and Satoka Yamane, "An Empirical Study on the Function of Strategic Management Control in Environmental New Product Development," 4<sup>th</sup> Conference on Performance Measurement and Management Control, EIASM, Nice France, Sep.26-28, 2007

〔図書〕(計 2 件)

医療経営教育協議会(浅田孝幸等)、『医療マネジメント』、部分執筆 第 4 章「医療機関の生き残りのための経営戦略」、pp. 84-103、日経 BP 社、2008 年

Ohara, S., T. Asada、*Japanese Project Management: KPM-Innovation, Development and Improvement*、World Scientific Publishing、477 頁、2008 年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

浅田 孝幸 (ASADA TAKAYUKI)  
大阪大学・大学院経済学研究科・教授  
研究者番号：10143132

(2) 研究分担者

金井 一頼 (KANAI KAZUYORI)  
大阪大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号：50142831  
小林 敏男(KOBAYASHI TOSHIO)  
大阪大学・大学院経済学研究科・教授  
研究者番号：20205470  
高尾 裕二(TAKAO HIROJI)  
大阪大学・大学院経済学研究科・教授  
研究者番号：60121886  
小郷 直言(KOGOU NAOKOTO)  
大阪大学・大学院経済学研究科・准教授  
研究者番号：70115137  
大屋 幸輔(OOYA KOUSUKE)  
大阪大学・大学院経済学研究科・教授  
研究者番号：20233281  
大西 匡光(OONISHI MASAMITSU)  
大阪大学・大学院経済学研究科・教授  
研究者番号：10160566  
中島 望(NAKAJIMA NOZOMI)  
大阪大学・大学院経済学研究科・教授  
研究者番号：00095936  
西垣 葵(NISHIGAKI AOI)  
大阪大学・大学院経済学研究科・講師  
研究者番号：40379160  
福重 元嗣(FUKUSHIGE MOTOTSUGU)  
大阪大学・大学院経済学研究科・教授  
研究者番号：10208936  
椎葉 淳(SHIIBA ATSUSHI)  
大阪大学・大学院経済学研究科・准教授  
研究者番号：60330164  
関口 倫紀(SEKIGUCHI TOMOKI)  
大阪大学・大学院経済学研究科・准教授  
研究者番号：20373110  
松村 真宏(MATSUMURA NAOHIRO)  
大阪大学・大学院経済学研究科・准教授  
研究者番号：10379159  
ウイラワン・ドニ・ダハナ(WIRAWAN  
DONY DAHANA)  
大阪大学・大学院経済学研究科・講師  
研究者番号：90432426

(3)連携研究者

0名